



「田んぼの話し」

「たんぼの住民」

岡山県自然保護推進員 十川 巡一

たんぼの中に水が入り田植えが終わって、しばらくすると、色々な生き物が見え始めます。まず、エビによく似ていて、背中を下にして泳ぐホウネンエビ、名前のいわれは、水田雑草の芽を小さいうちに食べるので、たいりょうにはっせいすると、そのとしは豊年になるというのでつけられたなまえです。

それより少し遅れて出てくるのが、カプトエビです。岡山市原の、たんぼで初めて見ました(昭和37年)。見つけた時「こりゃあ！カプトガニに似とるからカプトエビじゃろうなあ」と思いましたが、まさしくその通りでした。古生代の地層から化石が見つかったので、生きている化石と呼ばれています。カプトエビも40対以上ある葉状肢を動かし、芽が出たばかりの雑草を抜くので、たんぼにとってよい生き物です。

また、約五ミリぐらいの二枚貝のような生き物もいます。よく見るとやはりエビのアシのようなものを、ゴソゴソさせながらのぞかせています。カイエビです。カイエビも化石が見つかったので、生きている化石なのです。カイエビは10年ほど前に初めてたんぼの中で見ました。「何、これって?」という感じでした(見つけた頃にはカイミジンコと名前を付けて呼んでいた)。

これらの生き物は、一ヶ月もするといなくなります。その間に卵を産みつけます。また来年たんぼに水が入るとふ化します。ということは調度たんぼに予防をする前に、いなくなるんです。上手な生き方ですね。

昭和40年頃、ゲンゴロウの仲間の幼虫が体をくねらして泳いでいるのを見かけた事もありました。成虫では、ハイイロゲンゴロウやガムシの仲間やタイコウチ、ミズカマキリもいたが現在はあまり見かけない。

また、アマガエルのオタマジヤクシや、カエルになりたての小さなアマガエルも見ることができます。とてもかわいいんですよ、あかちゃんがえる！

自分が生まれる前のズーと昔から、毎年繰り返していたのでしょね。

その頃になると昔ほどではありませんが、フナの子が結構いました。ナマズの子、数が少ないけれど、小さいのや、大きいのが見られます。大きいので、5cmぐらいのを見たこともありました。

植物は、たんぼで農作業する人には水田雑草と嫌われていますが、私はかわいい花をつけるので昔から好きなんです。昭和38年3月に原へ引っ越しして来て色々な水田雑草が目につくようになりました(大久保では良くたんぼの草を取っていたので、見た記憶が無い)。まず目立ってくるのが、オモダカ、葉の形がクワイを小さくしたような形で、白いかわいい花をつけ、次から次と咲かせます。次にウリカワ、セキシヨウモをみじかくしたような葉でオモダカによく似た小型の花です。そしてタカサブロウなどです。

花の色が違うのが、コナギ、ハート型の葉をつけ青いかわいい花をつけます。そして、私が一番好きなミズオオバコです。原に引っ越しして来てたんぼのみぞで初めて見ました(昭和37年)。「ワッ！水の中にオオバコによく似た植物がある」と思い、自分でミズオオバコと呼んでいましたが、まさにその通りでした。この頃から野草が好きになりました。葉はオオバコによく似ているが水草独特の柔らかい葉です。花は淡いピンク色から白色で花びらは3枚、この花がかわいいのです(全部、原へ来てから気が付いた)。背の高い草もあります。アメリカミズキンバイといって、黄色い花です(初めて見たのは平成7年頃)。



ホウネンエビ(大久保にもいたが昭和38年原でも見た)



アメリカカプトエビ (昭和38年原で初めて見た)



オモダカ



コナギ



タカサブロウ



アメリカミズキンバイ (熱帯アメリカ産)